

Ⅳ－７ 本四Ｅルート地域交流活性化調査について

建設省 四国地方建設局 松山工事事務所 栗原誉志夫

小林 幸雄

伊賀 達也

○真砂 圭祐

１．目 的

平成 11 年春、今治から尾道に至る島々を結ぶ瀬戸内しまなみ海道（西瀬戸自動車道）が開通する。瀬戸内しまなみ海道の開通により、「人」や「モノ」、「情報」の交流促進やそれに伴う地域活性化が期待されているが、道路整備等のハード事業とともに、人々の移動ニーズを喚起するソフト事業の実施やその推進体制の構築が大きな課題となっている。

本調査は、瀬戸内しまなみ海道周辺地域を対象に、社会、経済、産業、文化等の地域特性や観光レクリエーション拠点等の現状を踏まえた地域交流活性化のための基本方針を整理し、その支援について、ソフト面、ハード面の整備方策について検討することを目的とした。特に、交流・連携を推進する組織づくり、交流・連携の基本方向及び活動プログラムの検討、交流・連携活動を支える制度等の検討を主なねらいとした。

２．調査対象地域

本四Ｅルート地域の中で、今治市・吉海町・宮窪町・伯方町・上浦町・大三島町を重点的に取り上げ、調査対象地域とした。

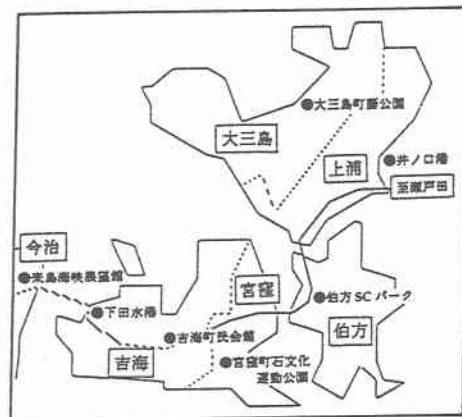


図 1 瀬戸内しまなみ海道

３．調査結果

（１）基礎資料の収集・整理

市町村の人口を距離によって評価することにより市町村間の交流可能人口を指標化し、瀬戸内しまなみ海道開通に伴う効果を予測した。その結果、次の点が明らかになった。

- ・架橋通過市町で交流可能人口の大幅な増大が予測される。
- ・島しょ部では、人口集積がある尾道・今治市との交流可能人口の増大が予測される。

（２）交流・連携組織の検討

より具体的な地域連携活動を進めるためには、地域の民間主体による交流・連携活動が必要であるとの認識から、民主導のネットワークづくりを進め、民間有志のネットワーク「しまなみ交流連携倶楽部」発足に向けた合意が形成され、平成 9 年 7 月、正式に発足した。

（３）「いい会議」の実施

調査対象地域の官民からなる「いい会議」を 3 回実施し、活動プログラムや社会実験の検討、社会実験結果の評価、今後の取り組み方向の検討等を行った。

（４）「いい会議・首長懇談会（しまなみ交流フォーラム）」の実施

「いい会議」の実施を受け、市町村間の交流・連携活動の促進に向けた合意を形成するため、首長による懇談の場を設けた。なお、本会はフォーラム形式とし、首長による懇談とともに地域住民の方の参加による意見交換、合意形成の場とした。

(5) 活動プログラムの検討

「いい会議」において検討した交流・連携可能性の中から8つのプログラムを取り上げ、実現に向けた具体的な検討を行った。8つのプログラムは次のとおりである。

- ・地域情報の交換・共有
- ・日常生活に関わる交通利便性の向上
- ・しまなみパスポートの発行
- ・圏域の統一イメージの形成
- ・水軍の歴史を活かした参加型イベント
- ・「しまなみの駅」ネットワークの形成
- ・地域文化に関わる生涯学習講座の実施
- ・環境美化に関わる住民ボランティア活動

(6) 社会実験の検討・実施

a. 活動プログラムのうち、「しまなみの駅」ネットワークの形成を取り上げ、平成8年11月の1か月間、その設置実験を実施した。実施内容は次のとおりである。

- ・駅員の配置
 - ・情報コーナーの設置
 - ・電動アシスト自転車の貸出
 - ・スタンプラリーの実施
 - ・地域特産物の展示販売企画「縁むすび市」の開催
 - ・地域文化を学ぶ生涯学習講座「縁むすび学校」の実施
 - ・地域環境点検企画「環境探検隊」の実施
- これらの実験を通じて、次のような課題が明らかになった。

- ・地域内外の人々が広く交流する拠点整備の必要性が高い。
- ・交流拠点は住民参加型が望ましく、住民参加型の交流・連携活動を定着させる。
- ・電動アシスト自転車の貸出は事業化の可能性がある。
- ・今後の交流活性化に向け、地域が連携してイベントに取り組む必要がある。
- ・実験を契機に生まれた民間の交流・連携活動をさらに活発にしていく必要がある。

b. さらに、活動プログラムのうち、環境美化に関わる住民ボランティア活動を取り上げ、平成9年10月20日(月)から12月20日(土)までの2か月間、今治市内の国道196号において、地域の方々と道路管理者が協力して道路清掃や花壇整備等を行うとともに、協力団体名を明記した看板等によりその活動をPRする新たな取組「あいロード」を試験的に実施した。その中で、散乱ごみ量の調査、ドライバー及び今回の協力団体である今治市立西中学校の生徒に対するアンケート調査等を行った。この実験を通じて、次のような結果が得られた。

- ・花壇整備及び看板設置により、散乱ごみ量は約11%減少した。
- ・「あいロード」について、清掃団体である今治市立西中学校の子どもたちは前向きな評価をしており、地域への貢献、道路美化に対して高い満足感を得ている。また、花壇整備や看板設置により活動意欲が増大する傾向が見られる。しかし、ドライバーによる看板の認識度は約34%にとどまっており、今後「あいロード」に関する周知徹底が必要と考えられる。
- ・花壇整備について、ドライバーはごみを捨てる動機の低下、子どもたちは活動意欲の増大、沿道事業所は地域のイメージアップ等の効果がみられ、今後参加手段や参加主体の多様化、実施区間の拡大等を検討する必要がある。
- ・ドライバーや子どもたちから今後の道路管理のあり方として「道路利用者と道路管理者が一体となった」取組が期待されており、「あいロード」も含めた住民参加手法を今後も検討していく必要がある。

4. 今後の課題

本調査を踏まえ、今後瀬戸内しまなみ海道地域の交流活性化に向けては、

- ・「社会実験」方式による交流・連携活動の積み上げ
- ・瀬戸内海大橋完成記念イベント「しまなみ海道'99」を契機とした継続的な連携事業の定着
- ・広島県側との交流

を図っていくことが求められる。